

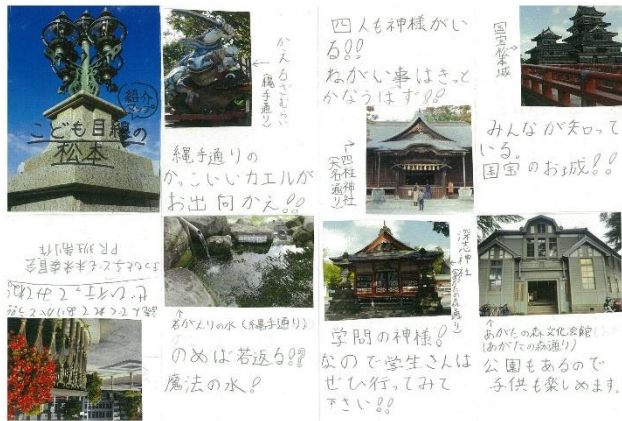
第6期まつもと子ども未来委員会 市への提言について

1 市への提言

(1) 松本市の観光 PR について

「松本は面白い」ということを多くの人に知ってもらうために、実際に自分たちで松本の観光地に足を運んで写真を撮影したり、PR 文を考えたりして、「子ども目線の松本」というパンフレットを作成しました。（※提言時には、下書きのパンフレットを紹介）

テーマを選んだ理由	課題	提言
・松本の面白いところを色々な人に知ってもらいたい	・新型コロナウイルスが流行する中で、「誰に」・「いつ行ってもらうのか」	・パンフレット紹介
・松本に詳しくない人もいるため、PRしたい	・新型コロナウイルスが流行する中で、本当にPRをしてもいいのか	



※A4 紙に印刷し、8 等分に折りたたむ
→ポケットサイズにして持ち運びしやすい形に

(2) 環境（フードドライブ）について

自分たちの身近で行われているフードドライブの取組みに関心を持ち、学習を進め、現在のフードドライブをさらに発展させる形で提言を行いました。

テーマを選んだ理由	課題	提言
・環境問題の深刻化（日本でのレジ袋有料化） →環境問題に関心を持った	・フードドライブの認知度が低い	・認知度向上 チラシ配布・回覧（学校・回覧板） ポスター掲示
・自分たちの身近な取組み（フードドライブ）を知った		・回収量増加 「常設」の回収ボックスの設置 （出張所・公民館・学校など）

(3) 校則見直しについて

普段、自分たちが校則に触れて生活している中で、不便に感じていることや時代に合っていないと感じることがあるということから、教育長・学校指導課からお話を伺ったりしながら、学習を進め、校則の更なる理解・発展を進めるための提言を行いました。

テーマを選んだ理由	課題	提言
・時代錯誤、不便を伝える	・表現が分かりにくい・曖昧 ・不要な校則の残存 ・先生・生徒一人一人が細部まで校則を把握できていない	・先生・生徒の校則の読み合わせ
・他の学校の校則を知る機会になる		・時代に合わせて校則を変化させる

2 新型コロナウイルスに関する子ども目線からの意見

新型コロナウイルスの影響で、学校が休業となっていた時、子どもたちが感じたこと・考えたことを話し合い、意見をまとめました。

	委員の意見（抜粋）	市（大人）への要望（抜粋）
学校・学習面	・学習方法や進みの遅れ、友人との差について、情報が得られないことが不安な気持ちにつながった	・ガイドラインや学習プリントのようなものを作成してほしい ・オンライン環境の整備を進める →個々の状況に配慮して環境が整っていない人に対しては、個別に柔軟に対応することが必要
日常生活・大人の行動	・「買いだめ」など、一部の情報に惑わされて冷静な判断・行動が出来ていなかった	・大人の行動は、子どもにも大きな影響を与えることから、慎重な行動を心がけてもらえるような効果的な施策や周知が必要

3 サポーター（大学生）からの一言

子どもならではの意見、積極性、発想に驚くことが多く、自分自身楽しみながら子どもたちと一緒に松本について考えることができ、貴重な経験ができた。

4 市関係者からのコメント

(1) 赤羽教育長

ア 松本市の観光PRについて

- ・今年感心したことは、「松本は面白い」ということに目を付けたこと。学習をとおして学ぶ→面白い→みんなに知ってもらいたいというプロセスを経ているから人の心に伝わると思う。
- ・松本城など、一点に絞って詳しく、面白さを探っていくと良い。子ども目線から見た面白さが広がるのではないかな。

イ 環境（フードドライブ）について

- ・フードドライブについては、提言のとおりだと思った。
- ・自分は、市役所に勤めていたから参加する機会があったが、色々な場で機会があれば、活動が広がるのではないか。
- ・生きていく上でとても大切な、ものの命を大切にしようということを広めることになる。

ウ 校則見直しについて

- ・校則は、時間を守りましょう・ゴミを捨てないようにしましょうというマナーとは少し違う。
- ・クラスの仲間たちとルールを作る自治の精神につながる。
- ・（発表の中で委員が発言した）「意見が違う人もいるので、堂々巡りになりそうなくらい、難しい」ということについて、全て白と黒で決められないこともあると感じたことが大事。すぐに結論を出せないこともたくさんある。
- ・「先生・生徒との校則の読み合わせ」という提言は、皆で考える問題であるから、先生と生徒と一緒に見直して、呼びかけてほしい。

エ 新型コロナウイルスに関する子ども目線からの意見について

- ・アンケートの結果を見て、改めてこういうことを感じていたのかと思った。提言を含め、これから活かしていきたい。
- ・大人たちの行動はどうだったのかということについて、手厳しい意見もあった。未知なものへの不安は子どもも大人も同じ。大人は極端な行動に出ることもある。冷静に考えたとき、大人はどうだったのか、子どもに見られているということを大人に伝えていかなければならないと思った。

オ サポーターについて

- ・サポーターの存在は、心強く、助かった。未来委員からも育ってくれることを祈っている。

(2) 臥雲市長

ア 松本市の観光PRについて

- ・PRなどの情報発信や広報は、今までとは違うやり方でやっていくことが必要。
- ・（子どもたちが作成したものは）大人が書けないようなことをストレートに表現されている。
- ・他の大人や市が作成したものをたくさん見て、比較してもらい、作ってPRするまでに、自分たちで工夫できること、こうしたいと思うことを考えて作業し、未来委員会だけの特色を持ったものを作ってもらいたい。

イ 環境（フードドライブについて）

- ・フードドライブの具体的な話から、より勉強の幅を広げ、気候危機・再生可能エネルギー・脱炭素社会の問題など、身の周りの問題から大きな問題を考えていってほしい。

ウ 校則見直しについて

- ・今までのルールでいいところもある。変えた方がいいと思っている人が必ずしも多くない場合がある。
- ・疑問を持って、先生方に質問して、それからどうするかということ、発表だけで終わりにせず考え続けてほしい。
- ・ルールは変えられないものではない。どうしたら変えられるか、変える必要があるか、提言のことについても、改めて考え、みんなが本当に思っているなら実行に移してほしい。
- ・仲間を増やし、周りの人を説得し、みんなにそうだな、と思ってもらえることが必要。

エ 新型コロナウイルスに関する子ども目線からの意見について

- ・大人は、子どもより物をよく知り、経験もしてきているが、コロナウイルスについてはわからない。大人も子どもも差がないと思っている。
- ・日本も世界も、不安になったり、何をやるかははっきりしない。わからない中でどう判断していくか、社会の力がつく問題であると思う。
- ・子どもも大人も一緒になって、少しでも安心して毎日を過ごせるように、小さなこと、身の周りのことを子どもたちから大人にどんどん言ってほしい。

【提言の様子】

